

子どもがお店を開いたよ 300人超の家族連れで大にぎわい



▲親子で作ったアクセサリを売るお店

子どもが店主になって、要らなくなったおもちゃや絵本を売る。ゲームができるお店もある。スライムを作るお店もある。

こんな企画が十月二日、垂水邸で開催された。企画したのは兼折治加さんから伊野小児童のお母さんたち。当日の運営スタッフには地区内外から五〇人余が集まった。

金銭のやりとりが行われるだけに、子どもたちは緊張した様子だったが、主役の醍醐味を満喫した。

やってみたい!が集まれば...

子どもが作ったものを世に出したい。

ふと、子どもと作ったビーズアクセサリをみて思った、仲良しのお母さんに「こどもたちのお店せん?」と持ちかけ、快く「いいね!」をもらい、開催に至りました。

ありがたいことに、出店数8店舗。松江市、東地区からも参加していた。だき、保護者を含め、大学生のボランティア、地区の皆様で、当日は総勢50名ほどのスタッフで暑さを忘れ、思う存分楽しみました。

子どもが動き出し、母

が手を貸し、1ヶ月前になると急に父がやる気を出す。想像以上のことが各家庭で起きていました。

おかげで、一家総出のこどもマーケットになり、家族の幸福度が上がったのではないのでしょうか。始まりは小さな地区の3人のお母さんでした。どんなに小さくても、どんなに少人数でも「やってみたい!」が集まれば実現することを今回のマーケットを通してたくさんの方に届くことを願っています。

兼折 治加



これはね〜